

本学と愛知県臨床検査技師会との連携・共同による OSCE の構築

◎雪竹 潤¹⁾、今村 誠司¹⁾、中根 生弥²⁾、岡田 元³⁾、内田 一豊⁴⁾、市野 直浩¹⁾、秋山 秀彦¹⁾
藤田医科大学¹⁾、JA 愛知厚生連 豊田厚生病院²⁾、安城更生病院³⁾、豊橋市民病院⁴⁾

【はじめに】

本学は、臨床検査技師養成施設として2012年よりトライアルとして先駆的に客観的臨床能力試験 (Objective Structured Clinical Examination : OSCE) を導入した。2018年度にはトライアル期間に検討した OSCE 課題項目を基に本学での精査の後、総合臨床技術演習 (1単位) として OSCE を実施した。

しかしながら、課題項目や評価法、また OSCE の運営などに関しては、本学独自の方法でありその根拠は明確となっていない。そこで、2019年度から愛知県臨床検査技師会 (愛臨技) と連携・協同して、課題項目や評価法、さらに運営方法の適正化も含めて検討することとなった。今回は、今後の展望も含めて報告する。

【実施方法】

①2018年度 OSCE

2018年度は、トライアルとして実施した課題項目より表に示す8項目を選定し実施した。なお、OSCE 当日の試験項目は試験開始直前に課題項目の中から3項目を選定し学生に発表した。また、臨地実習終了後には学生に対してアンケート調査を行った。

表 OSCE 課題項目

	項目	実技試験
1	標準予防法	感染予防策としての手洗い
2	生理検査技術	心電図検査基本操作 (患者接遇を含む)
3	検体検査技術①	ピペット基本操作
4	検体検査技術②	標本作製技術基本操作 (血液塗抹標本)
5	検体検査技術③	標本作製技術基本操作 (尿沈渣標本)
6	検体検査技術④	標本作製技術基本操作 (採血管の分類)
7	形態学的検査技術	顕微鏡基本操作
8	輸血検査技術	血液型判定基本操作

②アンケート調査結果

臨地実習終了後に行った学生へのアンケート調査では、93%の学生が「技術レベルの確認ができた」

と回答し、96%の学生が「臨地実習に際して OSCE は必要である」と回答した。

③2019年度以降の OSCE に向けた本学と愛臨技との連携・協同

OSCE 課題項目毎に本学科担当教員と愛臨技実務委員を1名ずつ選出し、表の8項目についてそれぞれ検討を行い、既存の実施要項および評価基準の改定を行うとともに、新規課題項目の立案も行うこととした。4月より検討を開始、その後メールによる打合せを重ねて8月には実施要項と評価基準表の完成を目指し、9月下旬に実施する OSCE に備える。加えて、OSCE 当日は外部評価者として愛臨技より派遣された2名が、試験実施項目の妥当性、評価方法および運営方法の適正を評価することになっている。

【まとめと今後の展望】

アンケート結果より、OSCE の有用性は明らかとなったが、実施項目や評価方法の妥当性を客観的に検証し、さらに臨地実習との整合性を考慮した OSCE を実施することが望まれる。そこで本学では、2019年度より愛知県臨床検査技師会と連携・協同し、課題項目・評価方法の見直しや検討、また新規課題の立案を進めている。

今後は、医療系の共用試験では不可欠な CBT(Computer Based Testing)も導入し、医学部などで行われている全国で統一化された共用試験の構築と実施を「藤田×愛臨技」がリードして実現化を目指したい。

連絡先：0562-93-2516